

祝辞

小安重夫

量子科学技術研究開発機構 理事長



本日は先端基礎研究センターの設立30周年を迎え、誠におめでとうございます。心からお慶びを申し上げます。また、この特別な日にご招待いただきました日本原子力研究開発機構(JAEA)の小口理事長、先端基礎研究センターの高梨センター長、そして関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

現在、私が所属する量子科学技術研究開発機構(QST)とJAEAは深いつながりがあります。QSTは、放射線医学総合研究所とJAEAの核融合開発、そして量子ビーム応用研究を統合し、2016年に設立されました。その際、先端基礎研究センターからも多くの方々がQSTに加わり、現在もQSTで活躍していただいています。また個人的には、前川禎通先生がセンター長をされた頃に、私は数年間評価委員として、このセンターの研究活動を非常に近くから拝見する機会をいただきました。またJAEAで私が専門とする免疫学のセミナーをするという、稀有な機会もいただきました。その時には物理学の人にどうやって免疫を分かってもらえるかと、スライドを作るのに非常に頭をひねったことが、今となっては懐かしく思い出されます。

私はQSTの理事長に就任した4月以来、全拠点を回り多くの職員と意見交換をしてきました。そこで感じたことは、QSTの最大の魅力は、量子科学技術を軸にエネルギー開発から医学医療まで広範な分野の研究を推進し、同時に世界でも先駆的な大型研究開発施設を有していることです。これらの施設は国内外の研究機関や産業界とも共有され、研究成果の最大化に寄与しています。また現在、核融合研究開発が持っている超伝導のコイル技術、量子ビーム応用研究の持つレーザー加速技術、そして放医研の持つ重粒子線がん治療技術、この三つを組み合わせることで、第五世代の重粒子線がん治療設備である量子メスの完成が見えてきました。これは統合の成果であり、その点において日本原子力研究開発機構に感謝を申し上げます。QSTは世界最先端かつ高性能な研究開発施設を活用し、量子科学技術を中心に先進的かつ独創的な研究開発を推進しています。また、国内外の研究者と共用施設を提供し、幅広い分野で世界を先導するような研究機関を目指しています。

日本原子力研究開発機構は、我が国唯一の原子力の総合的な研究開発機構として、基礎科学から応用まで広範な使命を担っています。その中で先端基礎研究センターは、原子力研究開発の課題解決に対して、ファンダメンタルサイエンスの部分からその解決を図る、そしてさらにそれを新しいサイエンスに昇華させていくという使命を持って設立されたと理解しています。このことは原子力科学技術を通じて人類の福祉と繁栄に貢献する、という使命を持っている日本原子力研究開発機構にとって、その最も基礎となる部分をこの先端基礎研究センターが支えていることを示していると思います。設立から30周年、この間に多くの研究成果を上げてこられました。今後ますますその存在の重要性が増していくと期待をしております。

QSTとJAEAというのは、これまで連携重点研究制度を通して、相互の研究施設や設備を利用して原子力及び量子科学技術の分野に関わる共同研究を色々と実施してきました。今後の両機構の連携とは、先端基礎研究センターが目指す、自由で独創的な発想による研究を強化する、そして分野を超えた研究交流を推進する、そして基礎と応用の循環によるイノベーションにそれを繋げていくという点で目的が合致し、互いにオープンで競争的な環境下で人材交流と人材育成にも貢献できるのではないかと確信しています。

最後に、先端基礎研究センターの設立30周年をお祝い申し上げ、ますますのご発展を祈念いたしますとともに、日本原子力研究開発機構のご発展も心よりお祈りしております。誠におめでとうございます。